
メリーポピンズアトレ大森ルーム

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</p> <p>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ゆったりとしたワンフロアの保育室は1歳児から5歳児まで、ひとつの「家」のようにのびのびと遊びこめる保育環境となっています
	内容	園はワンフロアを生かしたゆったりとした保育環境が特徴的です。1歳児から5歳児まで75名の子どもたちが一つの大きな家のように、のびのびと遊びこむ姿が見られます。年上の子どもの動きや遊びにあこがれ、模倣し、年下の子どもに目を配り、世話をする様子も日常的に見られます。また、あちらこちらにグループを作り、みんなで話し合いながら遊びに興じています。職員の目が届く所に子どもたちがいることの安心感もあり、ワンフロアという特徴を上手に生かした保育環境が整えられています。
2	タイトル	子ども同士の助け合いや認め合い、励まし合い及び園行事の企画づくりなどを通して自ら考え、行動する力を育んでいます
	内容	今年度の園目標「5つの愛(ぶつかりあい・たすけあい・はげましあい・みとめあい・よろこびあい)」は、全職員が参加する策定会議で子どもたちへの思いを言葉にして作成されました。これら5つの「あい」は、園で繰り広げられる日常の保育の積み重ねによって育まれており、異年齢保育では助け合い、励まし合う姿が見られます。子どもたちが企画する園行事では準備段階のぶつかり合いを経て互いを認め合い、行事の成功に喜び合う姿が見られます。職員はこうした子どもの育ちを確かめながらゆったりと関わり、さらに伸びていくように支援しています。
3	タイトル	保護者支援を園運営の中心に据え、丁寧な対話やアプリの活用による利便性の向上、保育参加の受け入れ、情報の提供などに取り組んでいます
	内容	保護者支援として「接遇への意識向上」「子育ての意欲や自信を支援」「保護者参加や個別相談の受け入れの促進」を事業計画の中に位置付け、園をあげて取り組んでいます。登降園時は丁寧な対話を心がけ、混雑するお迎え時対応として入り口に週間予定表や食育ドキュメンテーションを掲示し子どもの活動を知らせています。日々の連絡帳アプリのやり取りやタイムラインの活用による写真配信、保護者参加の随時受け入れにより子どもの成長を共有し、個別相談には栄養士や看護師などの専門職も応じるなど、保護者との信頼関係の構築に取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者同士の交流を深めると同時に、保護者が積極的に保育に参加する環境を醸成し、さらなる保育の質の向上を期待します
	内容	どろんこ会グループの保育園にはそれぞれ「どろんこサポーターズ」、通称「どろサポ」と称する有志による任意参加の保護者団体があり、主に家族同士のつながりや子どもにとってより良い環境を作るための活動を行っています。園でも自然食堂や自然学校などの活動を通して、園活動に対する興味を持ってもらうように努めていると同時に、新たなイベント企画も実施しましたが、まだ工夫の余地があるでしょう。日常的な保育参加の環境を整えた上で必要性をアピールするなど、さらなる交流促進に向けた取り組みを期待します。
2	タイトル	職員の間でも人手不足を懸念する声が見られることから、人事育成に取り組むことによって保育環境のさらなる充実を図ることが期待されます
	内容	保育業界における人手不足は近年恒常化しており、一園だけの課題ではありませんが、保育サービスの向上を考えたとき、常に取り組むべきテーマとして位置付ける必要があります。当園においても職員自己評価結果から人手不足による職員の負担増を見て取ることができます。園では様々な手段を講じて人材の確保と育成に取り組んでいると共に、職員同士のつながりの深まりや連携強化が保育の質の向上に結びついているという一面もありますが、さらなる工夫と対策によって保育環境の向上を旨とすることが期待されます。
3	タイトル	開かれた園として地域とのつながりを深める活動が活発に行われていますが、認知度の向上を含めて来園者増に向けた取り組みを期待します
	内容	商業施設内という園の立地は、地域における認知度の向上にはネックのひとつになっています。しかし、施設長はこのような立地だからこそ積極的に地域とのつながりを育む活動に取り組んでいます。子育て支援の一環として園舎の開放を進めると共に、マジックショーなどのイベントも近隣の人たちとのつながりを深めることを目標としています。見学を希望する保護者に様々な工夫もなされていますが、いずれの活動も地域の人たちの参加にさらに結びつけていくことが課題となっています。園の認知度アップに向けたさらなる工夫と対策を期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	園を「子育て支援拠点」と位置づけて、親子クッキングや工作などに取り組んでいます	
内容①	商業施設内という地域とつながりにくい立地にも関わらず、施設長は地域の特性に応じた活動を活発に行っています。親子でクッキングをする自然食堂や制作等を楽しむ「芸術学校」などに加えて、園舎を地域に開放してユニークな活動にも取り組んでいます。昨年からは近隣の人たちを対象に「マジックショー」も始めました。子育て支援活動の「ちきんえっく」はチラシやホームページなどで公開しています。また、施設長は近隣の公立、私立保育園合同の園長会に参加するなど、地域との連携を深める活動にも積極的に取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	野菜の栽培など園全体で取り組む食育活動を子どもたちの「生きる力」につなげています	
内容②	「おいしいものを生み出すための労働を経験させたい」との施設長の思いから近隣小学校の花壇を借り、年齢に応じて野菜の苗植えに始めて水やり、収穫までを体験しており、園行事や季節と連動させた献立の検討及びクッキング計画に取り入れています。また、1歳児から食材に触れ、年齢が上がるにつれて皮むきなどの野菜の下処理を経験し、就学前には調理ができるようになります。様々な経験を通して食に対する興味を持つと同時に、職員や調理の専門家と共に「おいしいもの」を求める活動は、子どもたちの生きる力を育むことにつながっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	人との出会いや関わりを通じて公共マナーやコミュニケーション能力を身に付けています	
内容③	施設長は日々、子どもたちが自ら主体的に活動できる保育環境づくりに取り組んでいます。戸外活動では商店街ツアー、銭湯体験などの多彩な活動を通して地域の人たちとの触れ合うことで、社会で生きるためのマナーを身に付け、コミュニケーション能力を育てています。室内活動ではゆったりとしたワンフロアの保育室で年齢を超えて遊びこむ姿から、子ども同士の活発な交流を見ることができます。職員は子どもたちが自分の言葉で気持ちを伝えられるように支援しています。また、ルールの遊びを取り入れることでルールの大切さを知る機会としています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	園が目指す理念及び方針などは、職員の理解はもとより利用者への周知も図られています どんご会グループが目指す保育理念及び目標などは、全職員が携行する「保育品質マニュアル」や様々な機会を通してしっかりと浸透が図られています。年1回開催される本部の全体研修では代表自ら理念や方針を伝えると共に、新卒スタッフを対象とするOJT研修など、全ての職員が目指す方向性の統一に向けた取り組みは綿密に行われています。保育理念などは園の玄関に掲示すると共に、ホームページ及び入園時に配布する「入園のしおり」にも明記されており、年2回開催される保護者懇談会においても理解を深めるように努めています。 理念及び方針などは全職員の行動目標にまで落とし込む仕組みが整えられています 運営本部Missionに基づいて、次年度の園の活動方針を全職員で話し合う「策定会議」が行われており、施設長は自ら立案した事業計画書を示しながら園及びどんご会グループの目指す方向性を伝えています。また、基本としている「子ども主体の保育」が実践されているかを日々の保育の中で確認を行い、方向性を見失わないように適切なサポートが行われています。リーダー層の職員には園全体に目を配ると同時に職員育成の役割も担っていることを伝え、自覚を促す一方、新卒スタッフにはOJT研修などを通して理念及びビジョンを伝えています。 職員及び利用者に対する重要案件の伝達と周知は会議やアプリを通して徹底されています 園の運営に関わる重要案件は本部組織を通して園に伝達され、月1回の園会議及び日々行われる昼礼時などにおいて職員への周知が図られています。決定事項はそのプロセスと併せて議事録に明記し、回覧及び口頭伝達によって職員間の共有を図っています。全職員が確認すべき議事録や重要資料などは押印簿を設置し、押印を義務付けています。内容によっては「シッターノート兼お迎え伝達ノート」で周知を図っています。利用者に関わる重要案件は主に連絡帳アプリを使って配信すると共にお迎え時などにも改めて口頭で伝え、質問にも随時対応しています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者及び職員の意向を汲み取る仕組みが整備され、福祉情報の収集にも積極的です</p> <p>利用者の意向などについては毎年実施される「利用者アンケート」を通して把握に努めると共に、保護者の都合に合わせて随時行われる面談も意見などを聞く機会となっています。職員アンケートを基に行われる「策定会議」をはじめ、職員の意向や意欲を汲み取る仕組みが整えられており、事業計画の策定につながっています。施設長は自治体による私立保育園施設長会議及び本部の地域園長会議などを通して保育ニーズを把握すると同時に、研修及び勉強会において保育事業全体の動向を把握し、得た情報は保護者の保育参加の推進という課題へとつなげています。</p> <p>園独自に策定した3か年計画を基に事業計画を策定し、予算編成も適切に行われています</p> <p>施設長は子どもたちの主体性を大事にする保育の実践及び地域に開かれた園を旨としており、園独自に策定する3か年計画記されています。運営本部方針を基に開催される会議において、次年度に向けた事業計画及び年間保育計画が策定されています。2023年度の事業計画ではどろんこ会グループとしてのISO14001の取得を機に新たに環境実施目標が設定され、食べ残しの軽減など「食」を中心としたSDGsへの取り組みを始めました。研修費や部品購入費など園の運営に必要なとされる経費は予算化され、事業計画に盛り込まれています。</p> <p>「目標達成評価制度」によって全職員が目標を設定し、定期的に振り返りを行っています</p> <p>事業計画で設定した園目標を基に、全職員が「目標達成シート」で各レベルに合った組織目標及び個人目標を設定し、面談を通して定期的に振り返りが行われています。職員個々の目標達成シートには目標項目及び目標水準、目標期限が明記されており、中間面接で進捗状況の確認を行うと共に半期ごとに職員自らが自己評価を行い、その結果を踏まえて施設長による適切なアドバイスにつながっています。なお、園目標は職員からの提案も含めて、次年度に向けた策定会議の場で話し合った上で策定することで、目標達成に向けた意欲向上につながっています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

様々な機会を設定し、全職員が法や倫理への理解を深める取り組みが行われています

全職員が守るべき法や規範、倫理はもとより、保育の品質を高めるための心得が綿密に書かれた「保育品質マニュアル」を常に携行するとともに、「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を基に定期的に自らの言動を振り返るなど、常に尊厳を守る保育の実現を目指しています。また、保育士としての理想的な行動を明文化した「コンピテンシー」に基づいて専門職としてのあるべき姿を確認し、実践につなげています。「情報」「コンプライアンス」に関して全職員が遵守できているかを確認し、改善につなげるチェックも定期的に行われています。

利用者の意向に対応する仕組みが整えられ、尊厳に対する理解を深める試みも緻密です

玄関にご意見箱を設置し「本園における苦情解決につきまして」との文書を掲示すると共に、苦情や意見が入った時点で園及び本部担当部・課と即時に共有しています。「ご意見・ご提案シート」に記録し押印を義務づけて全職員への周知を図り、解決・改善に向けた取り組みは報告書で共有しています。毎年3月に行われる研修において子どもの人権について確認すると共に、年2回「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を基に自らの言動を振り返り、「虐待対応マニュアル」及び「虐待早期発見チェックリスト」による職員研修も実施されています。

子育て支援の活動に園舎を開放するなど、地域との関わりを深める活動に積極的です

子どもたちの活動状況をはじめ事業計画、財務状況はホームページなどを通して公開するなど、園運営の透明性を高めています。実習生やボランティアへも個人情報取り扱いなどに配慮を求めながら積極的に受け入れています。施設長は園を子育て支援の拠点として位置付けており、地域の子育て支援活動「ちきんえっぐ」と共に園舎を開放した企画を積極的に取り入れています。保護者同士で料理を作る「自然食堂」や「自然学校」「芸術学校」などに続いて、昨年からマジックショーも始めました。施設長は地域ネットワークとの交流にも積極的です。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(00000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>立地を考慮した訓練を実施していますが保護者の安心感につながる取り組みを期待します</p> <p>商業施設内に位置する園では事故や災害に関わらず子どもの命と安全を守ることを最優先に捉えており、施設が実施する避難訓練への参加や不審者の侵入に対する訓練などを定期的に行っています。園内に避難ルートを明示することで日ごろから子どもたちに万が一に備える意識を持たせています。戸外活動における見失いや置き去り事故防止に備えて人数確認リーダーを決め、ダブルチェックを徹底しています。リスクマネジメント研修も実施していますが、保護者からは安全に対する懸念の声も聞かれます。園の取り組みの説明など、懸念の払拭に期待します。</p> <p>災害や事故などを想定したクライシスマニュアルに加えて、事業継続計画も策定しました</p> <p>重大な災害、事故などに備えて「クライシスマニュアル」を策定し、園ではその中の「事故発生時対応フローチャート」に基づいて迅速に対応する仕組みが整えられています。新たに事業継続計画(BCP)も策定され、「保育品質マニュアル」への掲載など周知を目指して準備が進められています。通院を要したけがや見失いなどの事故に関しては「事故記録簿」に記入して本部と共有すると同時に、全職員が押印して確認することが義務付けられており、原因究明及び再発防止策の策定につなげています。感染対策も手順に従って徹底が図られています。</p> <p>機密性の高い情報は適切に管理され、パソコンのアクセス権限も設定されています</p> <p>入園児関連などの機密性を要する情報は管理するパソコンが限定されており、アクセス権限も設定されています。重要な書類関係は鍵付きの書庫に保管されており、鍵は施設長が管理しています。USBメモリなどの外部記憶媒体の使用は一切禁止されています。職員に対しては毎年「情報セキュリティーチェック」を義務づけ、個人情報の取り扱い時の注意点などを確認、認識する機会としています。『情報公開要綱』は常に園の玄関に掲示するなど、保護者がいつでも確認できるように配慮しています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

人材確保に向けた取り組みが行われており、職員の意向を確認する制度も整っています

新卒を対象とした入社説明会への参加はもとより、大学へのアプローチ、職員による紹介制度の活用など、積極的なパイプ作りを通して人材の確保に努めています。園が進める「インクルーシブ保育」に対する関心が高く、採用に当たってのアピールポイントにもなっています。本部担当者と常に職員の状況を共有し、適宜面談を行って離職防止に取り組むと共に、毎年9月に全職員を対象としたアンケートで意向を聞き取り、施設長との個別面談、本部の担当課長との面談を通して本人の意向に沿った異動や配置などにつなげる「意向調査」が実施されています。

人材の育成を目的に、どろんこ会グループとしてキャリアパスが明確にされています

グループ内で統一された人事考課制度が整えられ、等級ごとに求められる職務・職責、それらに連動した報酬制度などが明示されているなど、職員のキャリアアップの道筋は明確です。月1回、本部スーパーバイザーによる研修「子育て(保育)の質を上げる会議」をはじめ新人職員を対象とするOJT研修、主任及びリーダー、事務、調理などを対象とする「階層別研修」と、職員の育成、成長につながる研修計画が充実しています。職員と施設長が行動目標を設定し、達成に向けてサポートする「かんぱにい」と呼ぶ個人別の目標管理制度が整えられています。

施設長は提案しやすい組織づくりを目指しながらチームワークの向上に取り組んでいます

施設長は何よりも職員同士、職員と経営層がお互いに話しやすい職場環境づくりを目指しています。そのひとつが希望する休みをできるだけ反映するシフト作成であり休憩は1時間しっかりとれるように組むローテーションです。休暇の多さも働きやすさにつながっています。外部研修に参加した職員は研修報告書を作成して回覧し、園会議及び昼礼で発表するなど共有が図られています。職員による日々の気づきは朝礼ノートやチャットなどを通して共有すると共に会議などで提案された案件は職員全員で話し合った上で実行し、状況に応じて改善に努めています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

施設長が2022年度において、目の前の子どもたちを真ん中に、切れ目なく、継続的に子どもの興味をつなぐ保育計画及び環境づくりを目標としました。背景にあったのは1年、そしてその先まで見通した保育計画ができていないのではないか、という思いでした。月ごとに計画や遊びの内容が途切れてしまい、その結果、子どもの発達や興味のあることを継続させる遊びや活動が思うようにできず、職員間の連携及び情報の共有にも課題がありました。そこで園では子どもの活動とそれに関わった保育士の働きかけ及び活動に加わった子どもの名前や日にちなどを一枚の紙に記入する「保育ウェブ」という手法を使って、目の前の子どもたちの興味や関心を職員間で共有しながら、必要な関わり方や環境の整備、保育計画の立案に取り組みました。その結果、計画の準備や実行に当たっていくらか課題はあるものの、施設長は「目の前の子どもたちの姿を原点に遊びや活動などを考える環境に向けた土台作りはできた」との実感を持っています。また、子どもと一緒に考えることで活動の幅が広がり、予想外のアイデアも生まれています。今後も子どもたちと話し合いながら継続性を考えた保育を行うことを目指しています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

施設長が課題と感じたのは「計画されている活動や遊びが、果たして子どもの発達や興味の変化に沿ったものとなっているかどうか」でした。活動や遊びを子どもの成長に合わせて、明日から翌週、翌月から次年度へとつなげ、進化させる意識が不足していたのではないかと、職員間でもそういった意識の共有がなされていなかったことも課題としていました。話し合いを通して改めて子どもを真ん中において、子どもを見よう、子どもの声を聞こう、そして子どもと一緒に考えよう、という考え方の共有を図りました。そして、子どもたちがしっかりと遊びこめる環境づくりを目指した保育計画の作成につなげました。施設長はようやく土台作りができた段階だという認識を持っていますが、保育計画に一本の道筋を見つけたことで、次年度に向けた事業計画が立てやすくなったとの思いを強くしています。「子ども主体の保育」の難しさは保育現場の職員がもっともよく知っているはずですが、どうしても大人目線での保育に走りがちなところを、子どもを真ん中において、子どもの声を聞いて計画を立て、成長に寄り添いながら遊びと興味の継続性を目指した取り組みが今後も期待されます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

施設長は「子どもたちの発達や成長を踏まえると共に、季節の移ろい、様々な体験を通して、昨日から今日、そして明日へとつながる保育」を目指しています。そのためには目の前の子どもの姿から興味や関心がどこにあるのかを捉えた上でさまざまな計画を立て、子ども目線で行事の組み立てを行う必要があると感じています。そういった考えに至る背景には職員同士、クラス内の意思統一、そして各クラス間との連携に対する課題がありました。日々の保育がその時々で細切れになるきらいがあったため、クラスでの打ち合わせや正規職員が参加する園会議、WEBを用いた勉強会などで目の前の子どもたちの興味や関心事を書き出すと共に、話し合いを行いました。その結果、計画を立案する際にはまず目の前の子どもたちの姿を見て考えることの必要性や意味を意識するようになりました。職員個々の経験や力量の違いから必ずしも十分に浸透しているとは言えませんが、振り返りを通して子どもたちの成長のためには必要な意識改革だという共通理解を職員間で共有することができました。意識の継続及び多忙な日々の中での計画立案の難しさはあるものの、今後も「つながる保育」を目指して取り組む予定です。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

短時間に集中する朝の登園から夕方の降園まで切れ目なく続く多忙な日々の中で、目の前の子どもたちの関心事や興味を引き出し、それらを一貫した保育計画に反映させることは難しいとはいえ、施設長はあえて「細切れな保育」になりがちな現状を課題と考え、目標として設定しました。重要視したのは職員による話し合いでした。クラス単位で、園会議の場で、そしてWEBなども活用しながら、その都度、目の前の子どもたちがどんなことに興味を持ち、何に関心があるのかを改めて書き出し、それを基に話し合いも行いました。このことで、職員が同じ目線で子どもたちの興味や関心事について意識することができるようになったと施設長は言います。課題解決のためには「職員間による情報の共有」の大切さを改めて認識しました。面接を通して話し合いの機会はありませんが、日々の保育の中で必ずしも十分な時間が取れるとは限りません。休憩時間では伝わることに限りがあります。しかし、テーマを設定し、課題解決に向けた話し合いを通して一定の成果を見ることができました。今後も「つながる保育」を目標とし、職員が一体となって子どもの成長を支援していきます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ1の講評		
<p>主にホームページの閲覧により園情報が入手できるようになっています</p> <p>園の情報は、どろんこ会グループ及び区のホームページ、園が発行する子育て支援情報誌「ちきんえっくだより」などから入手できます。どろんこ会グループのホームページにはグループ全体の理念をはじめ保育に対する考えなどが掲載されており、写真を多く使いながら保育内容を紹介しています。外国人向けに中国語版、英語版も用意されています。当園の情報は「施設一覧」から検索ができ、基本情報を始めサービス内容、各種おたより、献立表なども閲覧できます。園見学もホームページから申し込めるようになっています。</p> <p>子育て支援事業のチラシを近隣商業施設に掲示するなど、情報の提供に努めています</p> <p>園は駅に隣接した商業施設の3階にあり、通りからは分かりづらい場所であるため、施設長はさらに園の認知度を上げる必要があると感じています。より多くの利用希望者に園に足を運んでもらう施策として、園で開催する子育て支援活動の告知チラシを商業施設の親子トイレに通じる廊下に掲示するなど、園の存在をアピールしています。また、園の戸外活動「青空保育」では、地域の子育て中の親子に職員から声をかけ、園の子どもと一緒に遊んでいます。その際にも園で開催する様々な活動を紹介するなど、訪園につながるよう働きかけています。</p> <p>園の特徴や雰囲気など入園後のイメージがわくような園見学を実施しています</p> <p>園見学はホームページでも受け付けており、利用者の希望に沿って日程を設定します。見学時間は園外保育の時間帯に園長または主任が「入園のしおり」に沿って丁寧に案内しています。ワンフロアのゆったりした保育室に配置された絵本やおもちゃ、子どもたちの作品、大きな窓越しに給食室の様子を見るなど、実際に子どもたちが過ごす時間をイメージしながら見学することができます。園は駅に隣接した商業施設内にあり、利便性の高さから見学者も多く、今年度は約150名の園見学を実施しました。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園説明会は保護者が参加しやすい土曜日に設定し、ルールや重要事項を説明しています</p> <p>入園が決定した家庭には、2月中旬頃に準備書類一式が郵送されます。その後各家庭では、3月の入園説明会までに園の専用アプリに子どもや家庭の基本情報を入力することになっています。入園説明会は、保護者が参加しやすい土曜日に開催し、全体説明会と個別面談を実施しています。全体説明会では園の基本ルールを説明し、個別面談では重要事項説明書に基づき、さらに詳細を丁寧に説明します。特に、利用料金については保護者の誤解を招かないように、重要事項説明書の読み合わせを行い、説明後は署名及び捺印により同意を得ています。</p> <p>慣れ保育では、1歳児から受け入れを開始する当園ならではの配慮をしています</p> <p>個別面談では「入所前面談票」に基づいて保護者から子どもの状況を聞き取り、記録しています。また、予め入力された基本情報により食物アレルギーや健康上の不安がある家庭には、栄養士や看護師が同席し相談に応じています。慣れ保育についても相談の上で方針を決めています。当園は1歳児から受け入れているため、0歳児を他園で過ごしてきた場合には、同じ保育士が関わるなど安心感が得られるように配慮しています。初めて園生活を開始する子どもには、クラス担任が丁寧にに関わり、約1週間を目安に徐々に保育時間を延ばしています。</p> <p>転園あるいは卒園した子どもをいつでも受け入れる姿勢を示し、不安を軽減しています</p> <p>転園や卒園にあたり子どもだけでなく保護者の不安にも寄り添い、必要に応じて個別面談も行っています。特に転園先でもその子どもにとって適切な支援が継続できるように、保護者の承諾を得た上で必要な情報を提供するなどの支援を行っています。転園する子どもには写真や寄せ書きなどを渡し、また卒園する子どもには「小学校に入学してもいつでも遊びに来て良い」ことを伝えています。園を離れても園行事である「夏祭り」の案内をしたり、小学校に保育園ボランティア募集のチラシを配布するなど、いつでも子どもたちを受け入れる姿勢を示しています。</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
保育をするうえで必要な子ども一人ひとりの情報は個別記録、個別省察に記録しています 保育をするうえで必要な子ども一人ひとりの情報は個別記録にて管理し、これを基にクラス担任が毎月の個別計画を作成し、月末に省察を行い、個別省察として記録しています。個別記録、個別計画、個別省察は保育業務支援システムで管理し、非常勤を含む全職員が閲覧できるようになっています。食物アレルギーのある子どもについては半年に1回、保護者、施設長、栄養士が同席して面談を行ったうえで状況を確認し、配慮の必要な子どもについてはクラス担任が作成した「課題の整理表」を基に月1回のケース会議にて共有し、適切な支援につなげています。		
全体的な計画を踏まえて各種計画を作成し、要点を保護者にわかりやすく伝えています 全体的な計画は前年度の策定会議で定めた園目標を踏まえて作成し、擁護と教育が一体となった保育が展開されるように年間指導計画、月案、週案、日案に落とし込んでいます。また、年間指導計画は四半期ごとに、月案、週案、日案は次の計画作成の際に省察を記録し振り返りを行っています。保護者には、年度初めに全体的な計画及び年間指導計画を連絡帳アプリで配信し、その後6月と11月に行われる保護者懇談会では指導計画と子どもの成長や変化についての資料を配布して、子どもの成長や発達の様子、今後の園の方針などを分かりやすく伝えています。		
子どもの情報は職員間で共有され、保護者のお迎え時まで申し送られます 登園時の子どもの様子や保護者から伝えられた内容は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記載して職員が勤務前に必ず目を通し、重要事項は朝礼でも共有しています。また、病気や与薬状況などの情報は園日誌、保健日誌にも記録し、必要に応じて職員間で情報共有をしています。「シッターノート兼お迎え伝達ノート」により登園時からの情報が申し送られ、お迎え時に保護者に必要な内容が伝えられます。ノートには記入者名と伝達者名を記載する箇所があり、伝達漏れが発生しない仕組みが作られていますが、職員は細心の注意を払って対応しています。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どものプライバシー保護に努め、羞恥心に配慮した保育を行っています</p> <p>子どものプライバシー保護について慎重に対応しています。園外活動の名札着用の際には、保護者の意向に沿って氏名を裏向きにするなどの配慮をしています。園内ではおむつ替えは他の子どもから見えない場所で行い、排泄の失敗にはついたてを使用して着替えをするなどの配慮をしています。5歳児から性教育を開始してプライベートゾーンの大切さを伝え、子ども自身が自分の体を大切に守っていただけるように話しています。また、急な病院受診など子どもの情報を外部に提供する必要が生じた際には、区のルールに則って対応することを基本としています。</p> <p>子どもの権利を尊重し、チェックリストに則り定期的に振り返りを行っています</p> <p>どろんこ会グループとして「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を作成し、これを用いて全職員が年2回の自己点検をしています。「自分の意見を大人にはっきり言うことができるように」「他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるように」など、子どもの人権尊重及び子どもが互いに尊重し合える心を育てられるような配慮を全職員に求めています。園では保護者の価値観にも寄り添うことを大切にしており、対面での会話やアプリの活用により緊密な連携に努めています。</p> <p>虐待対応マニュアル及びチェックリストに基づいて、年2回の研修を行っています</p> <p>園では「虐待防止研修」を年2回行い「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」及び虐待対応マニュアルに則って、求められる子どもの人権や虐待防止について学んでいます。研修では主に家庭での虐待の疑いがある場合の対応フローについて確認をしています。また、自治体や子ども家庭支援センターなどの関連機関と連携し、虐待の実情及び防止に向けた見解や助言を共有することで理解を深めています。園では必要に応じて経験の浅い職員を対象にした同様の研修をさらに推進していく必要性を感じており、今後の取り組みに期待できます。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>どろんこ会グループは国際標準規格に準拠した運営で保育の品質を管理しています</p> <p>どろんこ会グループは2016年にISO9001を取得し、保育事業者として保育の品質が国際標準水準に達していることが認証されました。園では毎年事業計画を作成しており、保護者からの意見も取り入れながら是正や改善を図り「質の高い保育サービス」を目指しています。また、年2回定期的に内部監査室による内部監査を受けるなど、常に保育品質のチェックを行っています。万が一のけがに対する対応や水遊びの方法など、子どもの命に関わることに 대해서는園独自のマニュアルを作成するなど、ルールの順守を徹底しています。</p> <p>保育の質を高めることを目的に「保育品質マニュアル」が全職員に配布されています</p> <p>現場で得た知見や施設管理者との話し合いに基づいて「保育品質マニュアル」を作成しており、全職員の携行が義務付けられています。園児の健康管理、危機管理、衛生管理、感染症対応、虐待防止など、日々の保育で守るべき内容が網羅されています。毎年、現場の声や保護者の声を取り入れながら改訂版が発行されており、全職員が同じ目線で保育に取り組むと共に、日々の保育そのものの質を高めるうえで重要なツールとして位置付けられています。</p> <p>毎年実施している利用者アンケートから園の課題や検討事項を抽出し改善を図っています</p> <p>園では、年1回「利用者アンケート」を実施しており、今年度の回収率は100%でした。アンケート結果から保護者目線で見えた園の課題や検討事項を抽出し、より良い園づくりの一助としています。アンケート結果は対応策も含めて本部と共有すると同時に保護者にも開示されており、お迎え時にはその日の子どもの様子をよく知る職員が対応するようしたり、子どもの様子の伝え方を工夫するなど、日々の保育の改善につなげています。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>異年齢保育を通して、手を差し伸べ、頼り、憧れるような関係が醸成されています</p> <p>ワンフロアの保育室に1歳児から5歳児までの子どもと一緒に生活をしています。各クラスのスペースは自由に行き来ができるようになっており、子どもたちは好きな場所で好きな遊びをしています。園では異年齢保育を基本とし、すべての年齢の子ども同士の関わり合いを通して5歳児が1歳児の寝かしつけをしたり、年齢の小さな子どもが紙飛行機を折ってほしくて5歳児を頼ったりする姿が見られます。手を差し伸べ、頼り、憧れる関係が醸成されると共に、互いに思いやる気持ちが育まれており、利用者調査でも異年齢保育を歓迎する声が寄せられています。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもには適切な支援を行い、みんなと一緒に育っています</p> <p>どろんこ会グループでは「すべての子が、頼りあい、ぶつかりあい、手を差しのべあうインクルーシブ生活」の実践を推進しています。特別な配慮を必要とする子どもには、無理なく他の子どもと関わっていけるように、ケース会議などを重ねて生活や行事活動の選択を協議しています。関わり方を職員全員で共有し、保護者の思いも反映しながら環境を整え、適切な支援につなげています。園の子どもたちは小さい頃から生活を共にしているため、自然に手をつないだり、靴を履くのを手伝ったりするようになり、みんなと一緒に育っている様子がうかがえます。</p> <p>近隣の小学校や5歳児の保護者と連携してスムーズな就学につなげています</p> <p>5歳児が不安なく小学校入学を迎えられるように近隣小学校の校内見学や授業参観の機会を設け、小学校生活を具体的にイメージし不安がやわらぐようにしています。保育所児童保育要録の提出後には進学先の校長と教員が来園し、子ども全体の様子を見学することもあるなど、連携が図られています。また、5歳児の保護者懇談会では運動会翌日から午睡をなくしていくこと、年明けからハンカチとティッシュの個人持ちを推奨することなどを伝え、さらに区の幼保小連携会議資料「就学までに身に付けておきたいこと」を配布して、家庭での準備を促しています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>登園時には連絡帳アプリの確認と共に検温と健康観察を行い保護者の要望も聞き取ります</p> <p>登園時には、家庭から連絡帳アプリ経由で通知された内容を確認すると共に、受け入れた職員が検温と健康観察を行い、子どもの顔色や表情、けがの有無、体調を保護者に確認しています。その際、普段と違う様子やその日の保育活動に影響するような要望等があれば保護者から詳しく聞き取っています。保護者から得た情報は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記録し、重要事項は朝礼で全職員に共有されます。例えば戸外活動を室内活動に変更するなど、個別の配慮事項はしっかりと共有し、その子どもに無理のないように1日の生活を支援しています。</p> <p>異年齢で生活する中で、年上の子どもを手本に生活習慣を獲得しています</p> <p>1歳児から5歳児までの子どもがきょうだいのように生活しているため、年上の子どもを手本に年下の子どもたちが意欲をもってチャレンジしています。食事の場面ではスプーンの持ち方は一緒に食事をしながら学びます。着替えの際には周囲の子どもの真似をして自分でズボンに足を通しています。トイレトレーニングは家庭と協力して段階的に取り組みます。職員は子どもの意欲を尊重して見守り、手を差し伸べるタイミングで援助しています。また、園では朝の散歩活動に向けて朝食の重要性を保護者に説明し、望ましい食習慣の定着にも取り組んでいます。</p> <p>子どもの活動の様子は降園時の会話や連絡帳アプリ、玄関掲示等で保護者に伝えています</p> <p>降園時には、園での活動や子どもの様子を保護者に具体的に伝えるよう努めています。園は商業施設の中にあるため玄関外のスペースに限りがあり、混雑時にはゆったりとした会話もままならない状況もありますが、その分連絡帳アプリによる子どもの家庭での出来事や園での様子などのやり取り、リアルタイムの写真配信などをより丁寧に行っています。また、玄関ドアには週の活動スケジュールや、食育活動の様子を伝える「はたけしんぶん」を掲示するなど、限られた時間とスペースを活用してできるだけ多くの情報が提供できるように取り組んでいます。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>静と動の活動を子どもたちが選べるように保育室の環境を工夫しています</p> <p>ワンフロアの保育室は収納棚によって1、2歳児、3歳児、4、5歳児の空間に緩やかに仕切られています。1、2歳児の空間には指先を使うおもちゃや粘土、絵本などが子どもの手に取りやすいように収納され、ソフトマットを敷いて自ら遊びを選んで遊びこめるように工夫されています。3～5歳児の空間には年齢に合わせたおもちゃのほかに幼児アスレチックが設置され、少し離れた場所には色鉛筆や絵の具などが自由に使える製作スペースが用意されています。子どもたちは静と動の活動が選べ、互いの活動に集中できる環境づくりへの工夫が見られます。</p> <p>散歩をはじめとした様々な戸外活動に取り組み、季節の移ろいを敏感に感じ取っています</p> <p>長距離散歩を始め畑仕事、商店街ツアー、青空保育など戸外に出かける機会が多くあります。中でも当園の散歩コースは10か所以上あり、長・中距離、大型遊具や水辺のある公園などの中から子どもの要望も聞いて行先を決め、毎朝9時から約2時間の戸外活動を行っています。子どもたちは暑い、寒いだけでなく草花、虫の声、落ち葉などから季節の移ろいを感じ取り、職員も自然の不思議に気付くような声かけをして共に発見を楽しんでいます。畑活動では種まきから収穫までを体験することで、野菜にも収穫時期の異なるものがあることを覚えていきます。</p> <p>ルールのある遊びを通して子どもがきまりの大切さに気付くよう、職員は関わっています</p> <p>子どもがきまりの大切さを実感できるように、職員は気づきを促す関わりを心がけています。事例として5歳児クラスのドッジボールでは、子どもが陣地内のどこにボールを投げてよいか迷っているうちに相手が安全地帯に逃げチャンスを逃してしまいました。そのタイミングで職員が「ボールを長く持っている逃げられちゃうね」と声をかけると、子どもたちはボールの保持時間について考え、独自の「5秒間ルール」が生まれたというエピソードがあります。こうした経験からきまりの大切さを実感し、この独自ルールは4歳児へと引き継がれています。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>興味や楽しみを聞きながら、子どもと一緒に行事の企画を立案しています</p> <p>園では行事を「日頃の保育活動の延長線上にある子どもの成長を伝える場」と位置づけており、職員が子どもたちとの話し合いの中で興味のあること、楽しんでいることを聞き出しながら一緒に企画を立案しています。運動会の種目は5歳児が考えます。種目決定までは子どもたちの思い通りにならないことの連続ですが、お互いの意見のぶつかり合いを経て、助け合い、認め合う関係に変わっていきます。このプロセスを連絡帳アプリなどで保護者に配信して子どもたちの変化を感じてもらい、行事当日の成長した姿を見る楽しみにつながっています。</p> <p>遠足の長距離散歩に意欲的に取り組むなど、日々の散歩で鍛えた力を発揮しています</p> <p>「ケガをしない強い体を育てる」ことを目標に長距離散歩を取り入れるなど、1日2回の散歩は2歳児後半から往復4km、4、5歳児は往復10kmを目指します。全クラスとも歩行距離を伸ばし、1月の遠足では当初予定して行先をさらに遠い公園に変更しました。訪問調査日は遠足日で、子どもたちは口々に「〇〇公園に行く」と誇らしげな様子でした。この日の昼食は給食室で詰めてもらったお弁当です。1、2歳児は帰園後に輪になって食べましたが、3～5歳児は現地で食べ満足した表情で帰ってきました。長距離遠足は自信をつける機会にもなっています。</p> <p>保護者や親族、卒園生が行事に訪れ、子どもたちの喜びにつながっています</p> <p>年間行事スケジュールは年度初めに保護者向けに配信し、予定を早く伝えることで参加調整がしやすいように配慮しています。運動会はできる限り保護者負担を軽減すると共に、会場となる公園には現地集合及び解散とし、親族の参加もできるように配慮しました。園恒例の「どろんこ祭り」は園舎内で開催し、ワンフロアをコーナーに分けて、輪投げ、ボウリング、手作りおもちゃなどで遊びました。小学生になった卒園生も訪れ、懐かしく、誇らしい気持ちになれる機会でした。保護者も子どもたちにエールを送り、それが喜びと励みにつながっています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>お迎えを待つ子どもが家庭的な雰囲気の中でくつろいで過ごせるように配慮しています</p> <p>長時間保育の子どもたちのお迎えを待つ気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中でくつろいで過ごすことができるように配慮しています。カードゲームや1対1のゲームなど、普段の保育時間にはできない遊びに夢中になって遊びこむ姿や、職員の周りに子どもたちが集まりみんなで絵本を読んで過ごす姿などが見られます。職員は、子どもの甘えを受け止め、少人数の子どもたちが職員と十分に関わることで気持ちを満たすことができるような保育を心がけています。</p> <p>朝夕の合同保育時には活動を子どもが選び、楽しく過ごせる環境づくりに努めています</p> <p>早朝保育と17時30分以降は合同保育を行っています。基本的に子どもたちがやりたい遊びを好きな場所で行うなど自由に過ごしていますが、この時間帯は職員の配置を考慮し、特に1、2歳児が安心して過ごすことができるように配慮しています。静と動の活動スペースをある程度分けて、塗り絵を用意したり、ごろんと横になれるマットを敷いたり、絵本コーナーにベンチを置いたりして、ゆったりと静かに過ごせる空間も確保しています。室内の環境については定期的に職員間で話し合い子どもたちが安心、安全に遊びこめる環境を整えるようにしています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>栄養士や職員の細やかな配慮により子どもたちは自分の力で落ち着いて食事をしています</p> <p>献立はどろんこ会グループの栄養士が考案し、月2回のサイクルメニューとしています。薄味の和食を基本に旬の食材を取り入れ、様々な味覚を楽しめるように工夫されています。提供にあたり特に1歳児には個々の発達に応じて食材の刻み方を変え、おにぎりを小さく握るなど細やかに配慮し、3～5歳児は自分で盛り付けるバイキング形式ですから、各自好きな席で職員や栄養士も付いて落ち着いて食事をしています。給食のおいしさは家庭でも話題となり、要望を受けて栄養士から給食のレシピを渡すなど、家庭での食事にも一役買っています。</p> <p>子どもが育てた野菜なども使い、手作りの給食をみんなで食べています</p> <p>食育計画表に「調理保育」を位置づけて年齢に応じた活動をしています。1、2歳児は食材に触れ、野菜の皮をむいて下処理をします。3歳児から調理が始まり、4、5歳児は子どもたちが収穫した食材を調理して完成するまでの工程を体験し、就学前には下準備から調理までできるようになっています。園には畑がないため、施設長自ら近隣小学校に掛け合い花壇の一角を借りることができました。子どもたちは苗植えや水やり、雑草とりなどを行い収穫の喜びを体験しています。こうした活動は連絡帳アプリや園だより、玄関掲示にて保護者に知らせています。</p> <p>盛り付けは子ども自らが行き、食べられる量を調節し、完食した喜びを味わっています</p> <p>自分でできることは自分で子どもを育てるために、1歳児は発達に合わせておやつのお皿の下膳を行い、2歳児は3歳児から開始するバイキング形式の給食に向けてトングの持ち方を学び、一品は自分で盛り付ける練習をしています。3歳児からは食器の配置見本と必要量を見て自ら盛り付けをします。子どもは食べられる量を調節することを学び、完食する喜びを味わっています。なお、アレルギーのある子どもには除去食を提供し、提供フローに沿ってトレイと食器は別にし、調理員、職員2名の計3名による声出し確認を行うなど、誤食を防いでいます。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>看護師による健康教育が子どもの健康維持及び病気やけがの予防につながっています</p> <p>看護師は健康教育に指導力を発揮し、子どもの健康維持及び病気やけがの予防に取り組んでいます。日々乳児の散歩に同行し危険な場所はないか、車道にはみ出す子どもはいないかなど細心の注意を払っています。寒い季節は衣類のポケットに手を入れる子どもが多いため、職員には「転んだ時に手をつけるようによく観察すること」を指導し、子どもには「おててはどこかな?」と分かりやすい声かけで手を出すように促しています。帰園後の手洗いも一緒に正しい洗い方を指導し、体調不良の子どもは経過を観察し、保護者からの健康相談にも応じています。</p> <p>年間の保健計画表に基づいて、季節に応じた保健指導を実施しています</p> <p>年間の「保健計画表」を作成し月々の目標を立てて子どもへの保健指導を行っています。春は子どもの心の安定、夏季は暑さ対策、秋は体力増進、冬は風邪予防の習慣など季節に応じた内容が盛り込まれ、計画に沿って子どもの心身の健康及び安全を守り、子どもも自分で意識できるように支援しています。保護者には保健だよりを月1回発行し、園で実践している裸足保育や薄着の利点、感染症や子どもの誤飲事故についての情報と園での防止対策などを発信しています。特に11月には薄着及び朝食の大切さについて保護者に伝え、家庭での協力を依頼しました。</p> <p>健診や歯科検診に紐づいた保健活動、及び午睡中の睡眠チェックを丁寧に行っています</p> <p>月1回の身体測定、年2回の嘱託医の健康診断(1歳児は月1回)、年1回の歯科検診を実施しており、保護者へは身体測定の結果を専用アプリで配信し、健診及び歯科検診結果は診断表を渡しています。歯科検診が6月に実施されるのに合わせて、6月の保健計画においても2～5歳児を対象に「歯を磨こう」の話をしています。また、乳幼児突然死症候群の予防に向けて1、2歳児には5分おきに午睡中の体位確認、布団や毛布の位置確認、心臓音及び呼吸確認、うつ熱予防確認を行い生存確認表に記録しています。3～5歳児は30分おきに確認しています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>全職員が保護者に寄り添った対応に努め、安心して仕事ができるように支援しています</p> <p>今年度は保護者支援として取り組む計画のひとつに「接遇への意識を高める」を掲げ、保護者が安心して仕事ができるように、全職員が保護者に寄り添った対応に努めています。保護者による次月の保育の予約は専用アプリで受け付けていますが、急な残業などで提出期限が過ぎてしまっても電話か専用のアプリで受け付けるなど、柔軟に対応しています。第三者評価の利用者調査では「遅れる際に電話をすると柔軟に受け付けてくれるので、大変助かっている」「子どもや家庭の状況に応じて預ける時間を柔軟に対応していただける」などの声が寄せられています。</p> <p>日頃の保育園での子どもの様子を見られるように、保育参加を促しています</p> <p>園での子どもの様子から成長・発達をより深く知ってもらうために、保護者には保育参加を勧めています。参加は随時受け付け、1年で24名が参加をしました。保護者も参加できる年間行事としてどろんこ祭り、運動会、生活発表会があり、子どもの成長を園と共に喜ぶ機会となっています。また、年2回の保護者懇談会では、子どもたちのこれまでの姿、現在の様子、今後の活動のねらいなどを順序立てて話しています。懇談会は保護者同士の交流の場としても位置づけており、意見交換の時間を設けて親睦を深め、相互理解につなげています。</p> <p>送迎時や連絡帳アプリ、個別面談での関わりを通して保護者との信頼関係を育んでいます</p> <p>毎日のお迎え時には園での活動や子どもの様子を具体的に伝えるように努めています。園は商業施設の中にあるため玄関外のスペースに限りがあり、混雑時にはゆったりとした会話もままならない状況もありますが、その分連絡帳アプリによる子どもの家庭での出来事や園での様子などのやり取り、リアルタイムの写真配信などをより丁寧に行い、保護者との関係を深めています。子育てについての悩みや不安があれば、いつでも個別相談に応じ、より良い方向に導けるよう保護者と一緒に考えています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域に出て様々な体験を楽しみ、大人との関わりの中で公共マナーを学んでいます</p> <p>「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」ことを目指し、地域に出て様々な人と交流できる機会を設けています。例えば、週1回の商店街ツアーでは近隣の商店や会社を訪問して挨拶の大切さを学び、大人の目を見て話すことを体験しています。3～5歳児は月1回、銭湯に出かけて職員も一緒にお風呂に入ります。子どもたちには公衆道徳として「はしゃがない」ことを約束し、保護者からは「本人も楽しそうで公共施設でのマナーや体の洗い方など色々学べてありがたい」「得難い経験を与えてくれる」などの声が寄せられています。</p> <p>多彩な地域交流の機会を持ち、人対人のコミュニケーション能力を育んでいます</p> <p>子育て支援計画の中で、地域の子育て家庭に向けて子育て支援情報誌「ちきんえっぐだより」を発行し、子育て相談やイベントへの参加を呼びかけています。当園の子どもたちと子育て家庭の親子が触れ合う機会も大切にしており、月1回の青空保育では地域の親子と保育士、子どもたちが一緒に遊んでいます。また、地域の学童保育施設からはハロウィン行事に招待され、子どもたちは手作りの衣装で仮装して商店街を練り歩きました。その姿を見た地域の人たちの声かけに返答するなどの体験を通して、コミュニケーション能力も育んでいます。</p>		

調査対象

保育園を利用している63世帯を対象に調査を実施しました。在園児は75名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢が一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数

75

利用者家族総数(世帯)

63

共通評価項目による調査対象者数

63

共通評価項目による調査の有効回答者数

35

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

55.6

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が16人(45.7%)、「満足」が17人(48.6%)で「満足」以上の回答は合計33人(94.3%)でした。

自由意見には、「いつも丁寧に子どもと接していただき、感謝しています」「園児の主体性を重んじ見守ってくれる良い園だと思います」「基本理念も方針もとても素晴らしいと感じています」「のびのびと育っているので、満足です」「先生方の熱心な指導により子どもが成長する事ができ、ありがとうございます」「子どもが安心して通っています」「ポジティブなところがよいです」「異年齢保育で、様々なお友達と関わり合えます」「たくさんお散歩に連れていってくれるところがいいです」「保育時間内にスイミングや体操に連れて行ってもらえるのもありがたいです」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」で100.0%、「行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か」で97.1%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	35	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「日々、先生やお友達との関わりの中で学んでいるようです。楽しいこと、ちょっと嫌なことも含めて、経験しているものが発達の後押しをしていて感じています」「異年齢での活動が、他の保育園に比べて圧倒的に多く、さまざまなことを経験できるよい環境だと感じます」「家庭ではできない、良い体験をさせてもらっています」「保育園に通う事により、できなかったことがどんどんできるようになり、子どもの成長に驚いています」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	33	1	1	0
「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「子どもの考えや自主性を尊重して、対応をしていただいていると思います」「いつも楽しく保育園に行くので、ありがたいです」「普段経験させることができないことを経験させていただいています」「外遊びを多く取り入れており、子ども本人も楽しんでいます」「外遊びの有無も選ばせてくれるなど、とてもありがたいと思います」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「家では食べられないものでも、保育園では食べているので、きっとおいしいのだと思います。家ではバランスなども偏りがちなので、給食はとてもありがたいです」「おいしく食べているようで、同じメニューをリクエストされることがあります」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	33	2	0	0
<p>「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%でした。 自由意見には、「月に一回銭湯へ行く機会があるのが、ユニークでよいと思います。本人も楽しそうであり、これを通して公共の施設でのマナーや体の洗い方など、いろいろと学んでくれるため、親としてもありがたいです」「子どもが畑や銭湯も楽しみにしていて、感謝しています」「頻度高く外に連れ出していただき、季節の移ろいや自然の中に住まう虫や動物を肌身で感じているようです」「園庭がない中で、かなり頑張ってくださいと思っています」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	1	0	3
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が2.9%、「無回答・非該当」が8.6%でした。 自由意見には、「遅れる際に電話連絡をすると、柔軟に受け付けてくれるので、大変助かっています」「急な時間変更、行事の日時、保育時間など保護者への配慮が手厚いです」「延長したことがないです」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	21	10	3	1
<p>「はい」が60.0%、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が8.6%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「不安に思うことがあります」などの意見がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	1	0	0
<p>「はい」が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%でした。 自由意見には、「土曜日や、平日も夕方以降に設定をしていただけており、助かっています」「いつも配慮をしていただき、助かっています」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	31	3	1	0
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「担任の先生のみならず、経営層やその他の先生方でも、子どもについてほんの些細なことでも報告をしていただけたため、子どものことをよく見てくれていると感じます」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	4	1	0
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見はありませんでした。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	31	3	1	0
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「どの先生もとても丁寧に接してくださいます」「先生方がいつも笑顔です」「先生方がとてもフレンドリーで、笑顔が多く、先生間の雰囲気が良いです」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	33	1	1	0
<p>「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「特に小さいうちの体調変化やけがについては、より注意深く対応をしていただけていると感じます」「急な子どもの発熱などがあっても、すぐにお迎えに行けない保護者側の状況も、考慮していただけます」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	6	1	3
<p>「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が17.1%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が8.6%でした。 自由意見には、「先生方の対応について、特におかしいことや不満と感じたことはありません」「そのような状況がないので、わかりません」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	33	1	1	0
<p>「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「子どものできることを一緒に探してくれるため、大変ありがたいと感じます」「子ども一人ひとりのできること、やりたいことを尊重してくれます」「一人ひとりの子ども気持ちを大事にして、その子その子に合った対応をしてくれていると思います」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	30	3	1	1
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「特に気になったことはありません」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	31	3	1	0
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「お迎え時や連絡帳にて、どんな遊びをしたか、詳しく教えてください」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	30	4	0	1
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が11.4%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「細かなことでも、すぐに対応をさせていただきます」「子どもと他のお友達のトラブルがあった時に、即座に対応をしていただいたと耳にしました」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	18	14	2	1
<p>「はい」が51.4%、「どちらともいえない」が40.0%、「いいえ」が5.7%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「調べようとしたことがなかったので、わからない」という意見がありました。</p>				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

- 評価機関認証
- 東京都福祉サービス第三者評価機関認証
- 埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
- 千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
- 神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
- 社会的養護関係施設第三者評価機関認証